

令和2年9月30日
株式会社シーエス・ワンテン
バイアコム・ネットワークス・ジャパン株式会社

番組審議会議事録

- ・日時 令和2年9月30日（水）
- ・開催方法 新型コロナウイルスの影響により書面での開催
- ・参加者 審議委員総数 7名
 - 委員長 片岡 朋行（ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所 弁護士）
 - 委員 関谷 信浩（東放学園専門学校・東放学園映画専門学校 学校長）
野村 達矢（一般社団法人日本音楽制作者連盟 理事長）
芳賀 康浩（青山学院大学 経営学部 マーケティング科 教授）
松居 秀之（株式会社ピクス 常務取締役）
松尾 健司（株式会社J-WAVE 編成局 エグゼクティブプロデューサー）
山本 伸夫（株式会社日経BP 日経エンタテインメント！編集 編集長）

（衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワンテン）

福田 泉（代表取締役社長）
谷 俊之（編成局長）

（番組供給事業者：バイアコム・ネットワークス・ジャパン株式会社）

井股 進（代表取締役社長）
本間 雅彦（クリエイティブ&コンテンツ部 シニアディレクター）
戸田 裕介（クリエイティブ&コンテンツ部 編成/タレント&ミュージック マネージャー）
岡田 純明（コンテンツ・ディストリビューション・マネジメント本部 シニアマネージャー）

- ・審議番組 「MTV Select 11: JO1」
- ・放送概要 2020年9月5日（土）19時～20時
- ・番組内容 オーディション番組「PRODUCE 101 JAPAN」から視聴者投票により誕生した11人のグローバルボーイズグループ、JO1。8月にリリースされたセカンドシング

ルのリリースを記念して制作された特別番組を9月5日（土）に放送した。アーティストがお気に入りのミュージックビデオ10タイトルを紹介する人気シリーズ「MTV Select 10」の特別版として制作された当番組は、グループの人数となる11人にかけて番組名を「MTV Select 11」とし、各メンバーが1曲ずつ思い入れのある楽曲を、メンバーのインタビューを交えて紹介。ファンだけでなくこの番組を機に彼らを知る視聴者まで、グループの魅力が伝わるような番組制作を行った。

また、コロナ禍の中での番組制作となり、距離をとりながらもじっくりと話を聞けるようにメンバーを3グループに分け、スタッフの人数制限・検温の実施・定期的な換気・マスク/フェイスガードの着用を必須とするなど、感染対策を施した上での収録を行った。

・委員からの意見・質問とMTVの回答

○放送倫理、編集基準につき、問題となるような表現・発言はなかった。

○この番組はMTVの特徴を生かして、特集のアーティストがお気に入りもしくは影響を受けたミュージックビデオをセレクトしてアーティストそのものの理解を深めていくということにおいてとても有効的に理解を深められる優れた番組だと思った。

○MCを起用せずにメンバーのみで展開されているのが良かった。MCが手練手管でトークを展開させる手法には多くのメリットもあるが、MCと出演者の関係性に依存してしまったり、何より出演者がMCに向かって語ってしまうというデメリットもあると思う。その意味で今回の番組はメンバーが直接視聴者に語りかけてくれることにより、彼らの魅力がストレートに伝わってくると感じた。

○企画としてはとてもシンプルだが、好企画だと思う。人気アーティストを通じて視聴者の音楽の幅が広がるきっかけになるような企画なので、このシリーズは上手く作れば、日本の音楽カルチャーにも貢献できる企画だと思う。特定のアーティストにしか興味がないような方が、この番組を通じて他のアーティストに興味を持つことがあるようであれば成功だと思う。

○一方、このような企画であれば、自分たちで作詞、作曲しているようなグループでこの企画を見てみたかったと感じた。その意味においては今回のキャスティング理由が少し見えにくかったのと、音楽的に少し物足りなさも感じた。とはいえ、AIではなく、人にオススメされたものはとても「価値」があると思うので、MTVらしさが出ていた。

○各メンバーが自身の思い出と重ねて語ることで、ファンの方が新たなアーティストや楽曲出会う機会になるという点でも意義のある企画だった。また、ダンスもの、K-POPが中心なのかと想像していたが、洋邦、バンドからシンガーまでバリエーションがあったのも楽しめた。

○各メンバーがお気に入りという別アーティストのミュージックビデオを紹介する部分から、各メンバーのバラエティに富む嗜好（日本のものだけでなく、洋楽、K-POP

の様に多岐にわたっていた)、これらのアーティストから受けた影響(アーティストのダンスの凄さ、ライブパフォーマンスの凄さ、自分たちの学生時代に文化祭などでこれらアーティストのダンスを真似たことに対する感想など)、音楽に関する考え方、ミュージックビデオのカット割に対する考え方などを知ることができ、アーティストの既存のファンだけでなく初めて知った視聴者にも彼らへの興味を誘うものであったと思う。

- コロナの影響で撮影など制限があるなか、過去素材も生かしつつ、アーティストのルーツや嗜好なども知ることができるMTVらしい番組だったと思う。
- コロナ禍対策の意味もあったのだろうが、メンバーを3つのグループに分けたことも、個々のメンバーの個性が際立ち、非常に有効だったように思う。また、その配慮においても意識の高さが見受けられたのが良かった。
- 一方で全員のグループショットで一体感のあるグループ、というミュージックビデオの中ではない生の全員が揃ったカットや話があると良かったのではないかな。
- メンバーへのインタビューを固めないで、各パートの冒頭に少しずつ見せているところも工夫が感じられた。アーティストに興味がない人でも見やすいよう、テンポ感がある編集になっていたと思う。
- 一人ひとりの持ち時間も適切で視聴者を飽きさせない作りになっていたと思う。情報の補助としてタイミングよく適切な内容でナレーション処理されていたのも良かった。
- 本人達自身のことは、サラッとしかわからないが、好きなアーティストの好きなミュージックビデオということで洋楽や他の優れたアーティストへの興味を持たせていくのがいいと思う。「マルーン5の歌詞がいい」と言っていた部分など、洋楽アーティストの紹介の際は訳詞があると良かった。選ばれたミュージックビデオのバランスが良かったので飽きずに見ることができた。
- 彼らのオーディションの前と後での関係性に対する質問があり、彼らの成長などを理解することができた。また、メンバー間の会話からは、若干他人行儀なところも感じられ、今後さらに仲が良くなり成長していくのであろうということを思い浮かべることができた。
- 今年2月のファンミーティングで感じたことについて、初めての大きな会場での歌唱のため観客に圧倒されたこと、その後のコロナ禍のため現状ファンに会えていないということなどの率直な感想などが述べられ興味深かった。
- デビューシングル発売の感動が率直に述べられ、初々しさを感じた。また、セカンドシングルの説明、コロナ禍の中でのファンへのメッセージや今後の抱負も分かりやすかった。
- J O 1というグループについて、名前しか知らなかったので興味を持って見る事ができた。そのため、J O 1についての情報が少なかった点が少し残念だったが、番組そのものは最後まで興味深く見る事ができた。メンバーがそれぞれ辿々しいながらも、自

分の言葉で一生懸命、本音で紹介する楽曲に対する想いを語っていたためだと思う。その初々しい語り口に好感が持てた。

- 曲紹介の話の内容も歌詞、カメラワーク、ダンスのポイントなど、聴きどころ・見どころを紹介してくれたので、他のアーティストの楽曲も興味を持って見ることができた。他アーティストのミュージックビデオの紹介時間が長い分、J O 1の露出が短かったのですが、ファンも楽しめたのではないかと思います。また、一つの番組で様々なジャンルの曲に触れられて刺激的だった。
- 11人が1曲ずつセレクトするため、1人のアーティストが10曲を選ぶ回と比べるとどうしてもルーツに迫る、幅の広さを知るなどの点では深みは出にくいかなとは感じた。紹介される楽曲のバリエーションという意味では、今回の手法でも十分楽しめたが、グループでやるなら「お気に入りのビデオ」より、例えば、「ダンスの素晴らしさに驚いた作品」みたいな形で、それぞれの視点を比較できるようなくくり方や、セレクトのテーマを絞ったものも見てみたいと思う。
- 取り上げる楽曲のデータをもう少し出してもらえたら嬉しい。特にリリース年くらいは紹介してもらえると、メンバーの年齢はもちろん、視聴者自身の年齢とも重ねながら楽しめるような気がした。
- 本人達への興味があまり沸かなかったので、本人達の魅力の引き出し方にもうひと工夫あると良かった。
- 強いて言えば、各メンバーのところでテロップなりナレーションなりでそれぞれのメンバーのもう少し詳しいプロフィールを知りたかった。例えば年齢とか出身地とか簡単な生い立ち、特技など。そのような情報があればさらに各メンバーに対しての理解が深まったのではないかと思います。
- セットでのインタビューだけのため、画面上の動きに乏しかった点が少し残念だった。

・審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和2年9月30日以降、編成担当及び番組制作者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

・審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

令和2年10月以降に、シーエス・ワンテンのホームページに審議会概要を掲載、また、MTVでの放送内でも公表する予定。

以上